

## 令和元年度「大学生のための資格業ガイダンス」報告

**場所：愛知学院大学名城公園キャンパス**  
**日時：令和元年6月3日(月)12:00~16:00**  
**会場：AGALS タワー2階キャリアラウンジ前**  
**※調査士ブースを訪れた学生・・・18名**



名古屋自由業団体連絡協議会主催の「大学生のための資格業ガイダンス」が愛知学院大学名城公園キャンパスにおいて開催されました。愛知学院大学名城公園キャンパスは、平成26年4月に名城公園東側に開校した新しいキャンパスで、商学部、経営学部、経済学部のビジネス系3学部が集結し、現在は2年生以上が学んでいます。

今回は、経営学部の授業の一部として、このガイダンスを利用していただいたおかげで、全体で130名の学生が参加し、土地家屋調査士のブースには18名が訪れてくれました。すべて経営学部の学生で男性16名、女性2名でした。12時のスタートと同時に学生が訪れはじめ、終了時間間際までほぼブースが埋まっているという状況でした。

まず最初に「土地家屋調査士っていう資格を聞いたことがありますか?」「登記って知っていますか?」と聞いてみると、ほとんどの学生が「初耳です。」と答えます。そこで土地家屋調査士の業務を広報部で作成したパンフレットを使用しながら大まかに説明した後に質問を受けると、やはりいまどきの学生の興味は「稼げるのか。」「休みはあるのか。」「きつい仕事じゃないのか。」「試験は難しいのか。」といったところのようです。このあたりの質問には正直に答えました。ただ「日本人にとって命の次に大切な不動産を守る仕事でとてもやりがいがあり、誇りに思う。」ということを伝えると最後には興味をもってくれた学生が多く、目を輝かせながら「これから自分でもいろいろ調べてみます。」と言ってうれしそうにパンフレットを持ち帰ってくれました。

中には自宅が建設業や不動産業を営んでおり、家業を継いだときに業務を広げるために資格取得を考えているという将来像がはっきりしている学生も数名訪れてくれました。、その中には最初から不動産系の資格に強い興味を持って、土地家屋調査士の取得もこれからは真剣に考えるといってくれた学生もいました。

終わってみて振り返えると、授業の一部として訪れたとはいいいながらも資格取得に意欲があり、漠然とはしながらも自分のために勉強をしていきたいという学生が多かったという印象です。

また今回はパンフレットを4種類用意しており、業務の説明に大いに役立ちました。広報部で作成した簡易版・詳細版のパンフレットは色合いもよく他土業のパンフレットから見ても見劣りしないものです。

愛知学院大学名城公園キャンパスは、現在上記3学部の2年生以上が学んでいます。来年は1年生及び法学部の学生も学ぶようになり、更なる広報活動の場になることは間違いないかと思えます。ちなみに隣の司法書士のブースを訪れた学生は12名とのことです。

(広報委員 川北貴利)